

今年もよろしくお祈いします

平成も25年目に突入です。数字の区切りのいい年は、いつも以上に新たな気持ちになります。新年の誓いを立てて早2週間、成果はいかほどでしょう。そろそろがんばる気持ちがしぼんできたころではありませんか？気持ちを入れ替えるのは、特別なときだけではありません。自分が気付いたときが、入れ替えどきだと思います。何十回も何百回も仕切り直せるものです。大人も失敗を繰り返しながら努力していることを子どもに示すことも大切だと思います。

子どもがぐだぐだして頭にくても、生意気な口をきかれてむっとしても、朝は笑顔で送り出してください。「よくありがたい」と思うのは、人の常なる願いです。子どもも同じです。お小言を並べるのではなく、「いつも、応援しているよ。」という気持ちで背中を押したら、やる気倍増です。子どもは正直です。家庭での時間が楽しく満たされているときは、顔が輝いています。気にかかる事があるときは、うつむきがちで沈んでいます。子どもの心がいつも快晴であるように、温かな家庭でいてください。

「いつも心に太陽を」

昔の映画ですが知っていますか？

1967年に公開されたイギリス映画です。原作は、「先生へ 愛情をこめて」(To Sir, With Love)という小説です。白人の生徒達の学校に赴任してきた黒人の教師の物語です。白人と黒人の社会問題に視点を当てたストーリーですが、反抗的だった生徒達が、先生の情熱に触れ、徐々に心を寄せ、先生から、「人として大切なこと」「かけがえの無いもの」を学んでいきます。私が若い頃、感銘を受け、いつも心に刻んできた言葉です。心はいつもさんと輝いているわけではありません。長い曇天つづきでも、必ず、雲が切れるときがあります。だから、私は自分に語りかけます。「いつも心に太陽を」

最近の教育センター

相談室の子ども達は・・・

昨年、冬休みになったところで、お楽しみ会をしました。みんなでお買い物に行って、楽しくお好み焼きやクレープをつくりました。ゲームをしたりプレゼント交換をしたり、あっという間に半日がたってしまいました。子ども達の心からの笑顔やおしゃべりに心が和むひと時でした。



<教育相談から> 何か気になることがありましたら、遠慮なくお声をかけてください。心の重荷を軽くするお手伝いをさせていただきます。

(電話 83-3022)